

進路ニュース

みらい 41号

広島市立広島特別支援学校 進路指導部 広報係

高等部 1 年生 3 学期の取組から

高等部 1 年生では、1 月に校内実習を行いました。「かきのからとおし班」「しいたけの菌打ち班」「マドレーヌ班」「軽作業班」「清掃班」「縫製班」の六つの班に分かれ、班ごとの目標や個人個人の目標をかかげて、5 日間の実習を行いました。普段の学校生活とは違う雰囲気を感じ取りながら、仲間と共に活動する喜びや自分たちが仕事をした結果を喜んでもらえる充実感など味わうことができました。目標をしっかりと意識して実習を行うことを通して、実習前よりもあいさつや返事がしっかりできるようになったり、言葉づかいに気をつけられるようになったり、また、時間を意識した行動や日々の学習への積極的な参加など一人一人に成果のある意義深い取組となりました。同時に 2 年生に向けて、これからがんばらなければいけない課題も明らかになってきました。今後予定している、先輩の話聞く機会や作業所との活動交流、まとめの学習を通して、この 1 年間の成果と課題を 2 年生での取組につなげていきたいと思っています。

高等部 2 年生 社会へチャレンジ

高等部 2 年生では「社会へチャレンジ」をテーマに進路学習や職場見学、職場体験実習に取り組んできました。

9 月から始まった職場体験実習も 2 月末で全ての実習が終了しました。これまでになく長期にわたる実習でしたが、生徒もがんばりそれぞれがやりきった達成感を得ることができたようです。また、成果と同時に課題も明らかになってきました。それぞれが課題を踏まえ、これから卒業後の進路に向けて、日々取組を進めていきます。3 年生では「卒業後の願う生活に向けて」をテーマに進路学習や職場実習などの取組をします。これから、卒業後の新生活にスムーズに移行していけるようしっかり支援していきたいと思っています。今後とも、保護者の方の御協力をよろしくお願いいたします。

高等部 3 年生

1 月 21 日の高等部 3 年保護者懇談会及び 3 月 1 日の高等部 1、2 年保護者研修会において、高等部 3 年生の進路希望状況についてお知らせしました。

一般就労については例年にない経済不況のため実習先も少なく、取組が 2 月末まで続き最後まで気の許せない状況となりました。卒業後すぐに就職を考えるのではなく、就業訓練を受けて力をつけてからと施設へ進路変更する生徒もいました。

施設・作業所・デイサービスに関しては昨年度よりも生徒数が増えたことにより、実習数も一人が 1～2 か所となるよう進路希望先について事前にしっかりと保護者と話し込み決めていきました。強い希望のところから実習を行い、その結果受入が難しかった場合、次の実習先について再度保護者と共に考えながら進めました。また、公設のデイサービスについては初めから受入が難しい状況で待機を覚悟しての実習となりました。在宅覚悟で待ち続ける方については卒業後の日中の活動の場をどうするのかを並行して考えて行く必要があります事業所や関係機関と連携を取って進めてきました。4 月より利用可能な施設・デイサービスについては 3 月中に受給者証をいただいて進路決定となります。

また、同窓会についての進路学習や保護者への説明会などの取組も行ってきました。10 日の卒業式当日に入会式が行われ、今年度卒業生は第 15 期生として入会いたします。年 2 回同窓会行事が開かれ、卒業生にとっては情報交換やリフレッシュの場ともなりますので、ぜひ御参加していただけたらと思います。

卒業後のアフターケアは進路ガイダンスにもありますように、定期的に家庭や進路先に旧担任又はアフターケア係が連携を取らせていただきますので、宜しく願いいたします。卒業生一人一人進路先は異なりますが、新しい環境に早く慣れて豊かな社会生活が送れることを心より願っております。

地域生活・就労支援ネットワーク会 (2/8) と

就職支援連携会議 (2/24) の開催

地域生活・就労支援ネットワーク会は、本校の児童・生徒の進路指導や生活支援等に日頃から協力をしていただいている 8 つの相談機関や施設の方の参加による会です。また PTA の代表にも参加をしていただきました。

会の中では、夏季休業中に行った生活支援相談会の成果や相談会以降の具体的な支援への取組と課題について報告を行いました。個別の教育支援計画やサポートファイルの活用と継続的な支援の進め方について意見交換がされました。

また、高等部に入学する生徒の急増による今後の進路先の確保や障害者施設の不足が大き

な課題となることについても意見交換がされました。

今年度2回目の就職支援連携会議では、ハローワークなど6つの就労支援機関等の関係者に参加をしていただいて、3年生の就職状況や今年度の取組の反省と課題について報告を行いました。就職に向けた生徒の「挨拶」「コミュニケーション（意思伝達）」「指示理解」「労働意欲」などの課題や、就職後は保護者のサポートや協力、理解が職場定着につながるなどなどの意見交換がされました。

また、来年度から就職希望者の増加が予想されます。今後の就労支援機関との実習時の一層の協力や職場開拓の情報提供及び学校からの就職希望者の情報提供のあり方や職業評価についても意見交換がされました。

進路コーディネーター

今年度の進路指導を振り返って

年度初めに各学年で進路計画を提示させていただきました。しかし、生徒増によって見直されたものも多く、職場見学の日程を分散したり、体験実習が長期化したために保護者職場見学の箇所数を厳選したりする結果となり、保護者の皆様には困惑された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。しかし、生徒に保障すべき本校の進路の取組内容を確認してきていますので、学習集団を見直すことで効果的な見学成果を納め、一人一人の目的に応じた体験実習からは先を見通せる成果を求めることができました。

校内における進路学習（校内実習）についても生徒の課題に応じた集団編成を行うことで効果をあげることができました。進路の取組は、進路先を決定する取組に留まることなく、社会生活についての学習やマナーについて継続的に学習することが将来の生活に大きく役立つと思っています。

毎年の課題ではありますが、申請と同時に待機が決定してしまうデイサービスや施設の充足状況は、卒業後の生活を考えると厳しい社会状況であり、在宅生活をどう過ごすかを考える進路指導になっているのが近年です。

高等部を卒業した後のために、働く場や活動する場が欲しい！！と願います。どこにすればよいのか、そのためにどのような力をつけておくべきなのか悩みますが、それを考え始めるのは3年生になってからではなく、今なのです。具体的に利用施設を決定することはできませんが、どのような力をつけておきたいのかを具体化させて学校と家庭とで協力して取り組んでいきましょう。

進路研修会や進路懇談会、生活支援連携会議など、保護者の皆様には御協力等賜りまして本当にありがとうございました。

(進路指導部部長 細内 千恵子)